

## ヨシュア記9：1-10：28「敵の欺きに対抗する」

9:1 さて、ヨルダン川のこちら側の山地、低地、およびレバノンの前の大海の全沿岸のヘテ人、エモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちはみな、これを聞き、9:2 相集まり、一つになってヨシュアおよびイスラエルと戦おうとした。9:3 しかし、ギブオンの住民たちは、ヨシュアがエリコとアイに対して行ったことを聞いて、9:4 彼らもまた計略をめぐらし、変装を企てた。彼らは古びた袋と古びて破れたのに継ぎを当てたぶどう酒の皮袋とを、ろばに負わせ、9:5 繕った古いはきものを足にはき、古びた着物を身に着けた。彼らの食料のパンは、みなかわいて、ぼろぼろになっていた。9:6 こうして、彼らはギルガルの陣営のヨシュアのところに来て、彼とイスラエルの人々に言った。「私たちは遠い国からまいりました。ですから、今、私たちと盟約を結んでください。」9:7 イスラエルの人々は、そのヒビ人たちに言った。「たぶんあなたがたは私たちの中に住んでいるのだろう。どうして私たちがあなたがたと盟約を結ぶことができようか。」9:8 すると、彼らはヨシュアに言った。「私たちはあなたのしもべです。」しかしヨシュアは彼らに言った。「あなたがたはだれだ。どこから来たのか。」9:9 彼らは言った。「しもべどもは、あなたの神、【主】の名を聞いて、非常に遠い国からまいりました。私たちは主のうわさ、および主がエジプトで行われたすべての事、9:10 主がヨルダン川の向こう側のエモリ人のふたりの王、ヘシュボンの王シホン、およびアシュタロテにいたバシヤンの王オグになさったすべての事を聞いたからです。9:11 それで、私たちの長老たちや、私たちの国の住民はみな、私たちに言いました。『あなたがたは、旅のための食料を手を持って、彼らに会いに出かけよ。そして彼らに、私たちはあなたがたのしもべです。それで、今、私たちと盟約を結んでくださいと言え。』9:12 この私たちのパンは、私たちがあなたがたのところに来ようとして出た日に、それぞれの家から、まだあたたかなのを、食料として準備したのですが、今はもう、ご覧のとおり、かわいて、ぼろぼろになってしまいました。9:13 また、ぶどう酒を満たしたこれらの皮袋も、新しかったのですが、ご覧のとおり、破れてしまいました。私たちのこの着物も、はきものも、非常に長い旅のために、古びてしまいました。」9:14 そこで人々は、彼らの食料のいくらかを取ったが、主の指示をあおがなかった。9:15 ヨシュアが彼らと和を講じ、彼らを生かしてやるとの盟約を結んだとき、会衆の上に立つ族長たちは、彼らに誓った。9:16 彼らと盟約を結んで後三日たったとき、人々は、彼らが近くの人たちで、自分たちの中に住んでいるということを知った。9:17 それから、イスラエル人は旅立って、三日目に彼らの町々に着いた。彼らの町々とは、ギブオン、ケフィラ、ベエロテ、およびキルヤテ・エアリムであった。9:18 会衆の上に立つ族長たちがすでにイスラエルの神、【主】にかけて彼らに誓っていたので、イスラエル人は彼らを打たなかった。しかし、全会衆は族長たちに向かって不平を鳴らした。9:19 そこで族長たちはみな、全会衆に言った。「私たちはイスラエルの神、【主】にかけて彼らに誓った。だから今、私たちは彼らに触れることはできない。9:20 私たちは彼らにこうしよう。彼らを生かしておこう。そうすれば、私たちが彼らに誓った誓いのために、御怒りが私たちの上に下らないだろう。」9:21 族長たちが全会衆に、「彼らを生かしておこう」と言ったので、彼らは全会衆のために、たきぎを割る者、水を汲む者となった。族長たちが彼らに言ったとおりである。9:22 ヨシュアは彼らを呼び寄せて、彼らに次のように言った。「あなたがたは、私たちの中に住んでいながら、なぜ、『私たちはあなたがたから非常に遠い所にいる』と言って、私たちに欺いたのか。9:23 今、あなたがたはのろわれ、あなたがたはいつまでも奴隷となり、私の神の家のために、たきぎを割る者、水を汲む者となる。」9:24 すると、彼らはヨシュアに答えて言った。「あなたの神、【主】がそのしもべモーセに、この全土をあなたがたに与え、その地の住民のすべてをあなたがたの前から滅ぼしてしまうようにと、お命じになったことを、このあなたのしもべどもは、はっきり知らされたのです。ですから、あなたがたの前で私たちのいのちが失われるのを、非常に恐れたので、このようなことをしたのです。9:25 ご覧ください。私たちは今、あなたの手の中にあります。あなたのお気に召すように、お目にかなうように私たちをお扱ってください。」9:26 ヨシュアは彼らにそのようにし、彼らをイスラエル人の手から救って、殺さなかった。9:27 こうしてヨシュアは、その日、彼らを会衆のため、

また【主】の祭壇のため、主が選ばれた場所で、たきぎを割る者、水を汲む者とした。今日もそうである。

## 導入

先週のヨシュア記の学びで、神は失敗からも成功を導き出すことができになることがわかりました。

7章で、イスラエルの陣営に罪があったため、民のアイへの侵攻は失敗に終わりました。

その罪に対処し、当事者たちが神からの罰を受けると、イスラエルの民は土地の獲得に再び乗り出すことができるようになりました。イスラエルの民は、アイの町と住民を滅ぼしました。それが可能になったのは、彼らが神のことばに耳を傾け、そのことばを信じて100%従ったからです。

神はカナンの人々の罪を裁かれました。その裁きの器として、ご自身の民を用いられました。つまりこれは、神による罪に対する聖なる戦いだったのです。

神は罪を深刻な問題と見なされます。ですから、神はご自身の御子であるイエス・キリストを罪深い地上に送る必要があったのです。イエス・キリストは、私たちが受けるべき罪の罰を負って死なれました。私たちはひとえに神の恵みあわれみのおかげで、イエス・キリストをとおして赦しを受けることができます。

人はクリスチャンになると、来たるべき神の御怒りから救い出されます。

神は聖なるお方であり、罪を憎まれる、という事実を理解して初めて、イエスにある救いを本当の意味で感謝することができます。ヨシュア記からたったひとつのことを学ぶとするなら、神は罪を深刻な問題と見なされること、そして、神は罪を罰さずにはおられないことです。

では、ヨシュア記の次の個所を学びましょう。

9章1節から10章28節は非常に長い個所ですが、難しい個所ではありません。この部分には、私たちが日常生活で応用できる大切な教えが含まれています。

9章は、神の民に対するサタンの欺きとその欺きをもたらす結果についてです。10章は、神の民が戦いに勝利できるよう助けてくださる神の偉大さを示します。ヨシュアにとって一番長かった一日は、不思議な奇跡として聖書に記されています。

サタンは、いつも吠えたける獅子の姿でやって来るわけではありません（ペテロ第一5：8）。悪巧みによって欺く蛇のようにやってくる場合もあります（コリント第二11：3）。今日の個所では、サタンは欺く蛇のように近づいて来ます。

では、今日の個所を3つの部分に分けて考えていきましょう。

### 1. 9章1-15節 敵の欺き

9章1-4節から、エリコとアイの陥落を受けて、近隣の人々がそれぞれ違った反応をしたことがわかります。1-2節に記された反応は、敵軍たちがイスラエルに対して団結するというものでした。彼らは、個別にイスラエルを倒せないことを知り、打倒イスラエルを目指して同盟を組んだのです。

しかし、その同盟に参加しなかった人々がいました。ギブオンの人々です。彼らの住んでいたのは、イスラエルの陣営からたった34kmほどのところでした。

4-15節を見ると、ギブオンの人々が悪知恵を働かせてヨシュアと族長たちをだまし、盟約を結んだことが分かります。これは、イスラエルによる侵攻から自分たちの身を守るためでした。

彼らは遠くの国からはるばる旅をしてきたように見せかけました。

ヨシュア9：4-5

9:4 彼らもまた計略をめぐらし、変装を企てた。彼らは古びた袋と古びて破れたのに継ぎを当てたぶどう酒の皮袋とを、ろばに負わせ、9:5 繕った古いはきものを足にはき、古びた着物を身に着けた。彼らの食料のパンは、みなかわいて、ぼろぼろになっていた。

7-8節では、彼らは正直に話しているか問い詰められます。

しかし、その答えにヨシュアはだまされました。

そのだましの手口を書き留めておくと、私たちが同じ手口にひっかからないように気をつける助けになります。彼らの答えは次のようなものでした。

1. どの国かはっきり答えなかった。具体的な答えを出さなかった。
2. 彼らは自らをイスラエルのしもべと言った。
3. 過去の出来事を引き合いに出し、イスラエルの神をほめたが、直近のことには触れなかった。近隣に住んでいれば、エリコやアイについて触れることができただろうが、それでは素性がばれてしまう。そこで、エジプトからの脱出や荒野での戦いのみに触れた。
4. 自分たちはしもべだと言って、イスラエルが盟約を即時結ぶことを求めた。

これに加え、かびの生えたパンやぼろぼろになった皮袋と衣服を見せ、長旅であったことを強調しました。

つまり、ギブオンの人々は嘘八百を並べたのです。サタンは嘘つきで偽りの父だと聖書は語ります。

ヨハネ 8:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

14節を見ると、なぜギブオンの人々がヨシュアをこれほど容易くだませてしまったのかわかります。

ヨシュア9:14 そこで人々は、彼らの食料のいくらかを取ったが、主の指示をあおがなかった。

ヨシュアと族長たちは、この一件について神に尋ねませんでした。祈らなかったのです。もし祈っていたら、すべてが嘘であることを神が示してくださったでしょう。

ヨシュアと族長たちは、信仰ではなく見えるところによって歩んでしまいました。

ここから、私たちが日常生活に応用すべき教訓を正しく得ることが大切です。

### 適用

イスラエルの指導者たちは、霊的ではなく科学的に物事を判断しようとしていました。

つまり、自分たちの感覚に頼り、事実を検証し、話し合い、同意できる結論を出しました。これは非常に論理的で説得力がありますが、まったくの間違いでした。

ここで皆さんにとっても大切なことをお伝えします。私たちがクリスチャンとして生きる中で遭遇する最大の欺きは、自称クリスチャンからやってきます。

ギブオンの人々のように、自らを神のしもべだと語るのです。

#### ペテロ第二2：1-3

2:1 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現れるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。2:2 そして、多くの者が彼らの好色にならい、そのために真理の道がそしりを受けるのです。2:3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行われており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。

#### ヨハネ第一4：1

愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。

自称クリスチャンが科学者や知識人であっても、だまされてはいけません。その人たちの言うことが聖書に沿ったものであるかどうか、自分でみことばを読んで調べましょう。

使徒17：11で、ベレヤのユダヤ人は、パウロの言うことが本当かどうか知るために、熱心に聖書を調べました。

私が米国の神学校で聖書学を学んだとき、課題やコメントに私の言葉を裏付ける聖書箇所を添付していないと、教授に赤線を入れられました。

ほどなくして、聖書箇所について私がどう思うかは重要ではないということを学びました。

大切なのは、聖書が実際何と教えているかです。もちろん、例を挙げたり実生活に当てはめたりするのも役に立ちます。しかし、例示や適用は、聖書の教えの補助的役割でなければなりません。

コリン・ペッカム師の注解書には、私たちがだまされやすい選択について洞察に富んだ助言があります。

その内容は次のとおりです。

「正しく思える道が神の道でない可能性がある。不確かなら、時間をかけなさい。そのことを主の御前に携えていきなさい。神が迷いを取り除き、平安をもたらされると信じなさい。しつこくせきたてるような衝動なら、そのような切迫感は神からのものではない。

勇み足で決断しないこと。感情に押し流されて大切な選択をしてはいけない。神を待ち望みなさい。神の平安こそ、まぎれもなくたましいの審判である。」

ずいぶん昔に長老から私が学んだことを付け加えると、「悪魔はいつも勇み足。神にはたっぷり時間がある」ということです。

大切な決断を急いではいけない、というのは知恵のある言葉です。

ここで、サタンにだまされないために役立つことをいくつかまとめてみましょう。

1. 祈りの中で、何でも神に打ち明けましょう。神がみことばから答えを与えてくださるまで、神の御顔を求めつづけましょう。
2. 何事にも焦りは禁物です。どんなに自分や周囲で相談にのってくれた人たちが納得していても、急いではいけません。
3. 信頼すべきかどうか見極めるため、相手にあらゆる質問をしましょう。そして、じっくり観察しましょう。曖昧な答えをそのまま受け入れたり、褒め言葉や人間的な説得にだまされたりしないように気をつけましょう。

では、次の部分に進みます。

## 2. 9章16-27節 敵をしもべとする

16節には、ヨシュアがギブオンの人々と盟約を結んで3日後に、彼らが近隣の者であることがわかったとあります。どのようにそれを知ったのかは記されていませんが、その事実を知ったことは確かです。

ヨシュアと族長たちは、結んだ盟約を違えることはできませんでした。

当時、契約は重大なものでした。多くの場合、動物をふたつに切り、その間をともに歩きます。同意事項を守ると約束し、破ればふたつに切った動物のように切られるという意味でした。

創世記15：9-17で、神はこれに似たことをなさいました。しかし、この場合は、神だけが動物の間を通り過ぎられました。それは、契約を成就する責任は神ご自身にあることを象徴していました。

ヨシュアたちはギブオンおよび周囲の3つの町に着きましたが、そこに攻め入ることはしませんでした。

18節で人々は族長たちに不平を言いましたが、それは当然のことです。

ここでついに、ヨシュアと族長たちは民に対して、神の御名によって盟約を結んだので、それを守らなければならないことを認めました。

族長たちは、契約を破って神の御怒りに触れることは避けたかったので、ギブオンの人々の処遇を考えなければなりません。それで彼らを、たきぎを割る者、水を汲む者としました。つまり、イスラエルの民のもとで働く奴隷となったのです。

後に彼らは「ネティニム」と呼ばれるようになりました。この単語は、「与えられた者たち」という意味です。彼らは、宮の祭司たちの助手として与えられました。（歴代誌第一9：2、エズラ2：43）

約500名の者がバビロン捕囚からエルサレムへ戻ったのですから、彼らは主とその家に献身的に仕えていたのでしょう。（エズラ2：43-58、8：20）

ヨシュアが悪状況の中で最善の策を講じたので、この出来事は長い目で見てイスラエルに大きなダメージを与えませんでした。

### 適用

何か起こってしまった後で批判するのは簡単です。しかし、失敗してもただでは起きないヨシュアの努力は認めるべきです。

何かで失敗したり、敵に欺かれたりしても、それで終わりではありません。主権者なる神の導きのもと、その失敗を活かすことができます。

私の場合、牧師を辞めて、世界中のユダヤ人に宣教する宣教団体に移りました。そこで私はユダヤ人の文化やイエスのユダヤ人的性質を学ぶことができました。マタイの福音書を違った見方ができるようになりました。また、ヘブル語も少しわかるようになりました。望ましくない決断をしましたが、その中で最善を尽くすことで、人生の大失敗とはなりませんでした。

皆さんも、過去に望ましくない決断、悪い選択をしたことがないでしょうか。神に助けをいただいで、その状況を活かし、神の栄光のために用いていただきましょう。私たちが自らの過ちや失敗を認めるなら、神とともに歩もうとする私たちを、神は前進させてくださいます。

神は私たちひとりひとりを深く愛しておられます。そして、私たちにとって一番よいことを望んでくださいます。そのことを忘れないでください。神にすべてをゆだねる人に、神は最善を与えてくださいます。

### 3. 10章1-28節 敵を守る。

ヨシュアは敵と盟約を結び、彼らを守るはめになりました。

ヨシュア 10 : 1-8

10:1 さて、エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヨシュアがアイを攻め取って、それを聖絶し、先にエリコとその王にしたようにアイとその王にもしたこと、またギブオンの住民がイスラエルと和を講じて、彼らの中にいることを聞き、10:2 大いに恐れた。それは、ギブオンが大きな町であって、王国の都の一つのようであり、またアイよりも大きくて、そこの人々はみな勇士たちであったからである。10:3 それで、エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヘブロン王ホハム、ヤルムテ王ピルアム、ラキシユ王ヤフィア、エグロン王デビルに使いをやって言った。10:4 「私のところに上って来て、私を助けてください。私たちはギブオンを打ちましょう。ギブオンがヨシュア、イスラエル人と和を講じたから。」10:5 それで、エモリ人の五人の王たち、エルサレムの王、ヘブロン王、ヤルムテ王、ラキシユ王、エグロン王とその全陣営は、相集まり、上って行って、ギブオンに向かって陣を敷き、それを攻めて戦った。10:6 ギブオンの人々は、ギルガルの陣営のヨシュアのところに使いをやって言った。「あなたのしもべどもからあなたの手を引かないで、早く、私たちのところに上って来て私たちを救い、助けてください。山地に住むエモリ人の王たちがみな集まって、私たちに向かっていてからです。」10:7 そこでヨシュアは、すべての戦う民と、すべての勇士たちとを率いて、ギルガルから上って行った。10:8 【主】はヨシュアに仰せられた。「彼らを恐れてはならない。わたしが彼らをあなたの手に渡したからだ。彼らのうち、ひとりとしてあなたの前に立ち向かうことのできる者はいない。」

ヨシュアは、5人の王とその軍勢を相手に、人生最大の戦いに挑もうとしています。

神は勝利を約束してくださり、あらゆる形で助けてくださいました。

まず、天から突然「ひょう」が降ってきて、多くの敵を倒しました。なんと、ヨシュアの軍が倒したよりも「ひょう」に打たれた人数のほうが多かったのです。

ヨシュア10:11 彼らがイスラエルの前から逃げて、ベテ・ホロンの下り坂にいたとき、【主】は天から彼らの上に大きな石を降らし、アゼカに至るまでそうしたので、彼らは死んだ。イスラエル人が剣で殺した者よりも、雹の石で死んだ者のほうが多かった。

つぎに、ヨシュアの祈りに応えて、神は太陽と月の動きを止め、ヨシュアたちが敵を打ち負かすまで、一日の時間を延ばしてくださいました。

ヨシュア 10 : 12-15

10:12 【主】がエモリ人をイスラエル人の前に渡したその日、ヨシュアは【主】に語り、イスラエルの見ている前で言った。「日よ。ギブオンの上で動くな。月よ。アヤロンの谷で。」 10:13 民がその敵に復讐するまで、日は動かず、月はとどまった。これは、ヤシャルの書に記されているのではないか。こうして、日は天のまなかにとどまって、まる一日ほど出て来ることを急がなかった。 10:14 【主】が人の声を聞き入れたこのような日は、先にもあとにもなかった。【主】がイスラエルのために戦ったからである。 10:15 ヨシュアは、全イスラエルを率いてギルガルの陣営に引き揚げた。

5人の王たちはほら穴に隠れましたが、最終的にはヨシュアが見つけて殺しました。

### 適用

ヨシュアを勝利に導いた要因が3つあります。それは、神の約束（8節）、堅実な戦略（9節）、そして、祈りの中で主に呼ばれること（10-15節）です。

ヨシュアの行動は、聖書のふたつの重要な個所に説明されています。

1. ローマ14：23—しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。
2. ローマ10：17—そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

私たちが神の約束を信じて、神のお命じになったことに従うなら、それは信仰によって行動したことになり、神の助けを期待できます。

今どんなことに直面していても、聖書にある神の約束を信じ、信仰によって行動することができます。そうすれば、神が助けてくださるでしょう。

適用のふたつめは、戦略についてです。

ヤコブの手紙は、行いのない信仰は死んでいると語ります。

### ヤコブ2：14-18

2:14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。 2:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、 2:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。 2:17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。 2:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

ヨシュアは、徹夜で山を登り、奇襲攻撃を仕掛けることにしました。彼はそれまでの経験を活かしてイニシアチブを取ったので、神はそれを祝福してくださいました。翌日、兵士たちは疲れていたに違いありませんが、神がひょうを降らせて加勢してくださいました。

神のみこころに従い、信仰をもって踏み出し、神のために最善を尽くせば、神はすばらしいかたちで助けてくださいます。

私自身、これまでのクリスチャン生活で、神のみこころに従って「信仰」をもって踏み出したことで、神が奇跡を生みだしてくださったという証がたくさんあります。もっと時間があれば、皆さんにその証をお分ちすることができるのですが、今日は時間の関係で話を進めていくことにします。

最後に、10：12-13にあるヨシュアの祈りです。ヨシュアの兵士たちは疲れ、弱っていました。時間がもう少し与えられさえすれば、すべきことを成し遂げることができます。ヨシュアは、神の特別な介入を必要としました。ヨシュアは神に祈り、神は驚くべき方法で応えてくださいました。

エレミヤ 32:17 「ああ、神、主よ。まことに、あなたは大きな力と、伸ばした御腕とをもって天と地を造られました。あなたには何一つできないことはありません。

エレミヤ 32:27 「見よ。わたしは、すべての肉なる者の神、【主】である。わたしにとってできないことが一つでもあろうか。」

#### 詩篇74：16-17

74:16 昼はあなたのもの、夜もまたあなたのもの。あなたは月と太陽とを備えられました。 74:17 あなたは地のすべての境を定め、夏と冬とを造られました。

ここで重要なのは、この奇跡を説明しようとせず、ただ信じることです。

神に祈って奇跡を求めるとき、それを起こすのが神のみこころならそのとおりになります。私はこのことを信じます。皆さんもこのことを信じられるよう願います。もし信じられないなら、信じられないということについても神が助けてくださるよう、私は祈ります。

アーメン。では祈りましょう。